

の試み. 第 45 回日本神経学会総会 (水野美邦. 新高輪プリンスホテル. H16. 11 月 11-14 日)

佐藤克也. 調 漸. 辻野 彰. 江口勝美. 竹尾 剛. 井手芳彦. 辻畑光宏: 発症早期でのクロイツフェルト・ヤコブ病患者における髄液検査と画像診断の有用性 第 45 回日本神経学会総会 (水野美邦. 新高輪プリンスホテル. H16. 11 月 11-14 日)

佐藤克也. 調 漸. 江口勝美. 木下郁夫. 福留隆泰. 松尾秀徳. 富田逸郎. 辻畑光宏: Codon180 変異遺伝性 Creutzfeldt-Jakob disease の MRI と SPECT による検討. 第 9 回日本神経感染症学会 (松永宗雄. 弘前市総合学習センター. H16. 10 月 8-9 日)

堂浦克美: プリオン病治療法の開発. 第 7 回生命化学研究会シンポジウム, 仙台, 2005 年 1 月 21 日

堂浦克美: アミロイド結合化合物のプリオン病診断・治療への応用. 第 2 回東北アミロイド研究会, 仙台, 2004 年 12 月 17 日

堂浦克美: 治療開発の現状と展望. 市民講座「ヤコブ病の対策の現状と克服へ向けての歩み」, 仙台, 2004 年 10 月 31 日

堂浦克美: プリオン病: 遺伝子異常と臨床像・病理像及び治療薬開発の展望. 第 4 5

回日本神経学会総会, 東京, 2004 年 5 月 13 日

金チャンラン, 堀内 基広: 抗 PrP 抗体による培養細胞レベルでの PrPSc 産生抑制機構の解析 第 52 回日本ウイルス学会 (2004, 11/21-23, 横浜)

山口 聡子, 宮澤 孝幸, 堀内 基広: 人工合成硫酸化糖アナログによる PrPSc 産生抑制 第 52 回日本ウイルス学会 (2004, 11/21-23, 横浜)

山中仁木, 石橋大輔, 辻孝雄, 坂口末廣: 大腸菌易熱性下痢毒素サブユニット B 融合プリオンタンパク (PrP) の抗 PrP IgG および IgA 誘導能の検討. 第 34 回 日本免疫学会学術集会 (札幌) 2004

石橋大輔, 山中仁木, 片峰茂, 坂口末廣: マウスにおける異種プリオン蛋白の抗原性の検討. 第 52 回 日本ウイルス学会学術集会 (横浜) 2004

尹載宇, 坂口末廣, 山口尚宏, 片峰茂: 血清除去による N2a 細胞の神経突起形成の分子機構の解明. 第 27 回 日本分子生物学学会 (神戸) 2004

古川ひさ子 他: 尿中プロテアーゼ抵抗性蛋白検出によるプリオン病診断の問題点. 第 45 回日本神経学会総会, 2004 年 5 月 東京 新高輪プリンスホテル

古川ひさ子 他:尿中プロテアーゼ抵抗性
蛋白検出によるプリオン病早期診断の試
み(続報).第23回日本痴呆学会学術集会.
2004年9月 東京 江戸川区総合区民ホ
ール

金子清俊. 牛海綿状脳症 (BSE) と人変
異型クロイツフェルト・ヤコブ病. 第10
回原子力安全シンポジウム(原子力安全委
員会). 東京, 2.7, 2004

金子清俊. 欧州の食のリスクコミュニケ
ーション. 食のリスクコミュニケーション
意見交換会(内閣府). 東京, 2.16,
2004

金子清俊. 牛海綿状脳症 (BSE) と人変
異型クロイツフェルト・ヤコブ病. 食の
安全安心フォーラム(内閣府). 大阪.,
3.4, 2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食のリスクコミュニケーション講演会(内
閣府). 東京, 3.13, 2004

金子清俊. プリオン蛋白質の複製に関与
する因子. 産業総合研究所特別セミナー.
東京, 4.7, 2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食のリスクコミュニケーション講演会(内
閣府). 東京, 4.20, 2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食のリスクコミュニケーション講演会(内
閣府). 名古屋, 5.21, 2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食のリスクコミュニケーション講演会(内
閣府). 仙台, 6.8, 2004

金子清俊. プリオンたんぱく質の細胞内
輸送と細胞死のメカニズム. 第8回日本
神経ウイルス研究会. 札幌, 6.12,
2004

金子清俊. BSE とクロイツフェルト・ヤ
コブ病. 第13回PCR感染症検査研究会.
東京, 6.25, 2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食品に関するリスクコミュニケーション
意見交換会 (内閣府). 東京, 8.4, 2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食品に関するリスクコミュニケーション
意見交換会 (厚生労働省). 東京, 8.18,
2004

金子清俊. BSE とその食へのリスク.
食品に関するリスクコミュニケーション
意見交換会 (内閣府). 大阪, 8.24, 2004

金子清俊. 牛海綿状脳症 (BSE) と人変異
型クロイツフェルト・ヤコブ病. 全国消
費者団体連絡会. 東京, 8.27, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 東京, 9. 16, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 大阪, 9. 18, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (厚生労働省). 神戸, 9. 22, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 岡山, 9. 28, 2004

金子清俊. 牛海綿状脳症 (BSE)と人変異型クロイツフェルト・ヤコブ病. 日本農芸化学会関東支部大会. 東京, 10. 2, 2004

金子清俊. プリオン病. 福島県立医科大学脳神経外科学教室招待講演. 福島, 10. 21, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. リスクコミュニケーション意見交換会 (農水省). 京都, 11. 5, 2004

金子清俊. Unfoldin -治療法への応用-. 国際ヤコブデー. 東京, 11. 12, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 鹿児島, 11. 17, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 宮崎, 11. 18, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 京都, 12. 13, 2004

金子清俊. 日本における牛海綿状脳症 (BSE)対策について - 中間とりまとめ -. 食品に関するリスクコミュニケーション意見交換会 (内閣府). 名古屋, 12. 13, 2004

池袋 一典, 小笠原大輔, 金子 清俊, 早出 広司. 大腸菌組換え生産におけるプリオンの水溶性画分への発現. 日本生物工学会. 名古屋. 9. 21, 2004.

八谷如美, 定塚昌子, 逆瀬川裕二, 金子清俊. プリオン病と蛋白質アンフォールディング因子; Unfoldin. 第27回神経科学会・第47回日本神経化学会大会. 大阪. 9.21-23, 2004

渡邊光太, 八谷如美, 定塚昌子, 逆瀬川裕二, 金子清俊. 正常型プリオン蛋白質の細胞内輸送機構の解析. 第27回神経科学会・第47回日本神経化学会大会. 大阪. 9.21-23, 2004

逆瀬川裕二, 八谷如美, 金子清俊. HSP90bによる正常型プリオン蛋白質高次構造変換機構の解析. 第27回神経科学会・第47回日本神経化学会大会. 大阪. 9.21-23, 2004

金子清俊, 山田真紀子, 定塚昌子, 大久保卓也, 逆瀬川裕二, 八谷如美. プリオン蛋白質過剰発現老齡トランスジェニックマウスに於けるミトコンドリア由来アポトーシス機構. 第27回神経科学会・第47回日本神経化学会大会. 大阪. 9.21-23, 2004

八谷如美, 山田真紀子, 渡邊光太, 定塚昌子, 逆瀬川裕二, 金子清俊. プリオン蛋白質過剰発現によるミトコンドリア由来神経細胞死機構. 第77回日本生化学会大会. 横浜. 10.13-16, 2004

金子清俊, 山田真紀子, 定塚昌子, 大久保卓也, 逆瀬川裕二, 八谷如美. プリオン蛋白質過剰発現老齡トランスジェニックマウスにおけるミトコンドリア由来神経細胞死. 第77回日本生化学会大会. 横浜. 10.13-16, 2004

逆瀬川裕二, 岸田日帯, 渡邊光太, 八谷如美, 金子清俊. リコンビナントプリオン蛋白質のドミナントネガティブ効果による異常感染型プリオン感染機構の解析. 第77回日本生化学会大会. 横浜. 10.13-16, 2004

岩浪直子, 三川潮, 西道隆臣, 金子清俊. プリオン結合物質によるプリオン蛋白質構造変換阻害効果. 第77回日本生化学会大会. 横浜. 10.13-16, 2004

池袋一典, 野間崇央, 早出広司, 大久保卓哉, 逆瀬川裕二, 八谷如美, 金子清俊. 組織切片中の標的タンパク質に結合するアプタマーの探索法の開発. 第27回日本分子生物学会年会. 神戸. 12.8-11, 2004

田村美子, 功刀浩, 金子清俊, 北條浩彦. DNAメチル化によるエピジェネティックなヒトゲノム修飾に関する研究. 第27回日本分子生物学会年会. 神戸. 12.8-11, 2004

大西悠亮, 小見和也, 田村美子, 徳永勝士, 金子清俊, 北條浩彦. 対立遺伝子特異的 RNAi 効果の簡易評価システム. 第 27 回日本分子生物学会年会. 神戸. 12. 8-11, 2004

毛利資郎: プリオン感受性と遺伝子型、日本実験動物科学・技術 ながさき 2004 シンポジウム「ジェノタイプ、フェノタイプ、そしてドラマタイプ」(長崎市)、20 May 2004.

松浦裕一、毛利資郎、石川有紀子、藤田幸辰、北本哲之: 導入遺伝子過剰発現系ヒトプリオン病モデルマウスの評価、九州実験動物研究会 (宮崎市)、6 November 2004.

石川有紀子、毛利資郎、松浦裕一、藤田幸辰、北本哲之: 遺伝子導入ヒトプリオン病モデルマウスにおける内因性遺伝子の影響、九州実験動物研究会 (宮崎市)、6 November 2004.

藤田幸辰、毛利資郎、松浦裕一、石川有紀子、北本哲之: ヒトプリオン接種後のモデルマウスの臨床症状、九州実験動物研究会 (宮崎市)、6 November 2004.

野村恵子, 田中美保, 白石晴土, 大村孝文, 三池輝久: 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) に対するリバビリン併用療法に関する全国調査 (第三回報告). 第 46 回日本小児神経学会総会. 東京. 2004

細矢光亮, 野村恵子, 二瓶健次: 亜急性硬化性全脳炎に対するリバビリン脳室内投与療法. 第 回日本小児神経学会(東京), 2004

岸田修二、黒田康夫、余郷嘉明、保井孝太郎、長嶋和郎、水澤英洋: 進行性多巣性白質脳症の診断基準に基づいた全国疫学調査. 第 9 回日本神経感染症学会 2004. 10

鄭懷穎、余郷嘉明、北村唯一、野田和幸、金澤章、森秀生、長嶋和郎: 進行性多巣性白質脳症患者の剖検脳組織から得られた全長 JC ウイルス DNA の塩基配列の解析. 第 9 回日本神経感染症学会、2004、弘前

鄭懷穎、高坂友和、北村唯一、長嶋和郎、余郷嘉明: JC ウイルスゲノムのコード領域と調節領域の総合的な解析: PML の発症機構の解明を目指して. 第 52 回日本ウイルス学会学術集会、2004、横浜

高坂友和、池谷博、石田貴文、鄭懷穎、北村唯一、余郷嘉明: インドネシア東南端のスンバ島で検出された JC ウイルスゲノム型. 第 52 回日本ウイルス学会学術集会、2004、横浜

池谷博、鄭懷穎、高坂友和、北村唯一、余郷嘉明: 北海道出身者の解剖体から検出された新規な東北アジア系 JC ウイルスゲノム型 (MX). 第 52 回日本ウイルス学会学術集会、2004、横浜

宍戸-原 由紀子、保井 孝太郎

JC ポリオーマウイルスは、PML 核体で粒子形成する。第 52 回日本ウイルス学会 ワークショップ 7: ウイルス感染から粒子形成まで 平成 16 年 (2004 年) 11 月 横浜

宍戸-原 由紀子、保井 孝太郎

進行性多巣性白質脳症 (PML) の核内ウイルス封入体形成メカニズム第 2 報: ウイルス粒子形成は、DNA 複製と連動しているか? 第 45 回日本神経病理学会 平成 16 年 (2004 年) 5 月 前橋

岡田 由紀、澤 洋文、遠藤 秀一、大場靖子、西原 広史、田中 伸哉、長嶋 和郎: JC virus (JCV) agnoprotien の発現と機能に関する研究。第 90 回 日本病理学会、2001 年、東京

林 宏恵、鈴木 聡子、駒込 理佳、西原 広史、大西 晶子、田中 伸哉、澤 洋文、長嶋 和郎: JC virus T 抗原と t 抗原の局在と機能の解析。第 42 回 日本神経病理学会総会学術研究会、2001 年、東京

遠藤 秀一、岡田 由紀、澤 洋文、大場靖子、田中 伸哉、長嶋 和郎: JC virus (JCV) agnoprotein の細胞内局在および tubulin との結合。第 49 回 日本ウイルス学会、2001 年、大阪

澤 洋文、鈴木 聡子、駒込 理佳、岡田

由紀、田中 伸哉、長嶋 和郎: JC virus の細胞への吸着及び侵入に関する検討。第 49 回 日本ウイルス学会、2001 年、大阪

岡田 由紀、澤 洋文、遠藤 秀一、大場靖子、田中 伸哉、長嶋 和郎: JC virus (JCV) agnoprotien の機能に関する検討。第 34 回北海道病理談話会 病理分科会、2001 年、札幌

駒込 理佳、西原 広史、田中 伸哉、澤 洋文、長嶋 和郎: JC virus capsid protien VP1 の糖脂質、糖蛋白質への結合。第 24 回 日本分子生物学会、2001 年、横浜

逸見 千寿香、岩田 博司、駒込 理佳、佐藤 真実、田中 伸哉、澤 洋文、長嶋 和郎: JC virus (JCV) VP1 による外来遺伝子 packaging 効率の検討。第 24 回 日本分子生物学会、2001 年、横浜

遠藤 秀一、岡田 由紀、澤 洋文、大場靖子、田中 伸哉、長嶋 和郎: JC virus (JCV) agnoprotein は tubulin 結合蛋白質である。第 24 回 日本分子生物学会、2001 年、横浜

岡田 由紀、澤 洋文、遠藤 秀一、田中伸哉、梅村 孝司、長嶋 和郎: JC virus (JCV) agnoprotien の核移行の検討。第 24 回 日本分子生物学会、2001 年、横浜

岡田 由紀、澤 洋文、遠藤 秀一、田中 伸哉、梅村 孝司、長嶋 和郎：JC virus (JCV) agnoprotein (agno)の核内外移行シグナルとリン酸化部位の同定。第37回 日本ウイルス学会 北海道支部会総会、2001年、札幌

岡田 由紀、澤 洋文、高井 裕之、原田 直樹、門内 由美、渡部 美穂、長嶋 和郎、池田 恭治、本山 昇：Chk2 ノックアウトマウスにおける自然発癌の解析。第61回 日本癌学会、2002年、東京

岩田 博司、大場 靖子、澤 洋文、長嶋 和郎：神経系特異的な複製活性を示す JC ウイルス DNA 増幅機構の解明。第75回 日本生化学会、2002年、京都

仙葉 眞吾、逸見 千寿香、岡田 由紀、遠藤 秀一、佐藤 真実、澤 洋文、長嶋 和郎：JC ウイルス virion 形成における Agnoprotein の機能の解析。第75回 日本生化学会、2002年、京都

仙葉 眞吾、澤 洋文、岡田 由紀、長嶋 和郎：JC ウイルス転写調節領域に結合する神経系細胞特異的蛋白質の同定。第50回 日本ウイルス学会、2002年、札幌

岡田 由紀、澤 洋文、大場 靖子、遠藤 秀一、田中 伸哉、長嶋 和郎：JC ウイルス agnoprotein の局在とウイルス粒子の細胞内輸送に関する検討。第50回 日

本ウイルス学会、2002年、札幌

岡田 由紀、澤 洋文、大場 靖子、遠藤 秀一、田中 伸哉、長嶋 和郎：JC ウイルス agnoprotein の局在とウイルス粒子の細胞内輸送に関する検討。第6回 日本神経ウイルス研究会、2002年、静岡

逸見 千寿香、岩田 博司、駒込 理佳、佐藤 真実、田中 伸哉、澤 洋文、長嶋 和郎：吸着阻害活性を指標とした JC virus 認識膜タンパクの同定。第25回 日本分子生物学会、2002年、横浜

山本 晋、岩田 博司、澤 洋文、長嶋 和郎：定量的 real time RT-PCR 法を用いた JC ウイルス蛋白 mRNA の発現量の経時的検討。第38回 日本ウイルス学会 北海道支部会総会、2002年、札幌

澤 洋文、駒込 理佳、田中 伸哉、澤 洋文、長嶋 和郎：JC ウイルス受容体の同定。第92回 日本病理学会総会 2003年、福岡

近井 佳奈子、岩田 博司、逸見 千寿香、大場 靖子、田矢 洋一、澤 洋文、長嶋 和郎：JC virus と初期細胞応答。第92回 日本病理学会総会 2003年、福岡

山本 晋、澤 洋文、岩田 博司、岡田 由紀、長嶋 和郎：リアルタイム RT-PCR 法を用いた JC ウイルスの動態解析。第44

回日本神経病理学会 2003年、名古屋

澤 洋文、駒込 理佳、田中 伸哉、長嶋和郎：JC ウイルス外郭蛋白質 VP1 は糖脂質と糖蛋白質の糖鎖に結合する。第44回日本神経病理学会 2003年、名古屋

大場 靖子、澤 洋文、長嶋 和郎：siRNAを用いた JC virus 関連蛋白質の発現抑制。第44回日本神経病理学会 2003年、名古屋

仙葉 慎吾、長嶋 和郎、大場 靖子、澤洋文：JC virus の神経親和性を規定する転写因子。第44回日本神経病理学会 2003年、名古屋

大場 靖子、澤 洋文、長嶋 和郎：siRNAを用いた JC virus の感染抑制効果。第83回北海道医学大会 病理分科会 2003年、札幌

屈 秋民、澤 洋文、仙葉 慎吾、鈴木 忠樹、岡田 由紀、逸見 千寿香、津田 真寿美、田中 伸哉、長嶋 和郎：JC ウイルス核内移行のメカニズムの解析。第83回北海道医学大会 病理分科会 2003年、札幌

澤 洋文、岡田 由紀、仙葉 慎吾、小瀬眞吾、今本 尚子、田中 伸哉、長嶋 和郎：JC virus agnoprotein facilitates the nuclear egress of JC virus. (シン

ポジウム：ウイルス感染と細胞応答) 第76回日本生化学会大会 2003年、横浜

仙葉 慎吾、澤 洋文、岡田 由紀、長嶋和郎：Investigation of neural-specific protein that binds to JC virus (JCV) transcriptional control region. 第76回日本生化学会大会 2003年、横浜

鈴木 忠樹、澤 洋文、岡田 由紀、大場靖子、仙葉 慎吾、長嶋 和郎：I：Investigation of JC virus agnoprotein interacting protein, FEZ1. 第76回日本生化学会大会 2003年、横浜

屈 秋民、澤 洋文、鈴木 忠樹、仙葉 慎吾、逸見 千寿香、津田 真寿美、岡田 由紀、田中 伸哉、長嶋 和郎：JC virus-like particle (VLP)を用いた virion の核内移行の解析。第39回日本ウイルス学会支部総会 2003年、札幌

澤 洋文、屈 秋民、仙葉 慎吾、鈴木 忠樹、長嶋 和郎：Virus-like particle (VLP)を用いた JC ウイルス粒子核内移行の解析。(ワークショップ：感染の細胞生物学) 第51回日本ウイルス学会総会 2003年、京都

大場 靖子、澤 洋文、長嶋 和郎：siRNAを用いた JC virus の感染抑制効果。第51回日本ウイルス学会総会 2003年、京都 149) 逸見 千寿香、澤 洋文、岩田 博

司、大場 靖子、佐藤 真実、田中 伸哉、長嶋 和郎：吸着阻害活性を指標とした JC virus (JCV) 感染阻害抗体の単離。第 45 回日本神経病理学会 2004 年、前橋

寸田 祐嗣、岡田 由紀、澤 洋文、大場 靖子、逸見 千寿香、仙葉 慎吾、田中 伸哉、長嶋 和郎：JC ウイルス感染細胞における agnoprotein の機能。第 45 回日本神経病理学会 2004 年、前橋

鈴木 忠樹、屈 秋民、澤 洋文、仙葉 慎吾、岡田 由紀、逸見 千寿香、長嶋 和郎：JC ウイルス (JCV) virus-like particle (VLP) を用いた核内移行の解析。第 45 回日本神経病理学会 2004 年、前橋

大場 靖子、澤 洋文、長嶋 和郎：Small interfering RNA を用いた JC virus の感染抑制効果。第 93 回日本病理学会総会 2004 年、札幌

50) 中川 智子、澤 洋文、大場 靖子、七戸 秀夫、黒田 敏、長嶋 和郎：ウイ 靖子、仙葉 慎吾、藤田 敏次、黒田 俊一、長嶋 和郎：JC ウイルス感染におけるウイルス蛋白 agnoprotein と神経軸索伸張因子 FEZ1 の相互作用の機能解析。第 27 回日本分子生物学会年会 2004 年、神戸

澤 洋文、岡田 由紀、鈴木 忠樹、寸田 祐嗣、大場 靖子、長嶋 和郎：JC virus 後期蛋白 agnoprotein の機能解析。

ルス性ヒト脳疾患の実験モデル動物の作成。第 93 回日本病理学会総会 2004 年、札幌

近井 佳奈子、岩田 博司、仙葉 慎吾、大場 靖子、澤 洋文、長嶋 和郎：JC virus 感染における replication protein A のリン酸化。第 93 回日本病理学会総会 2004 年、札幌

仙葉 慎吾、岡田 由紀、澤 洋文、長嶋 和郎：JC virus 感染における Cleavage stimulation factor の関与。第 93 回日本病理学会総会 2004 年、札幌

逸見 千寿香、澤 洋文、岩田 博司、大場 靖子、佐藤 真実、田中 伸哉、長嶋 和郎：吸着阻害活性を指標としたイムノスクリーニング法による JC virus (JCV) 感染阻害抗体の単離。第 93 回日本病理学会総会 2004 年、札幌

鈴木 忠樹、澤 洋文、岡田 由紀、大場 第 52 回日本ウイルス学会学術集会 2004 年、横浜

仙葉 慎吾、澤 洋文、長嶋 和郎：JC virus 粒子形成時における Agnoprotein の機能。第 52 回日本ウイルス学会学術集会 2004 年、横浜

逸見 千寿香、澤 洋文、岩田 博司、大

場 靖子、佐藤 真実、田中 伸哉、長嶋
和郎：JC virus (JCV) 感染阻害抗体の単
離。第 52 回日本ウイルス学会学術集会
2004 年、横浜

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

竹中繁織,野島高彦,大塚圭一,堂浦克美:異
常プリオンの電気化学的検出方法。特願
2004-287562、2004 年 9 月 30 日

横田博, 堂浦克美:体外診断キット及び体
外診断方法。特願 2004-216510、2004
年 7 月 23 日

JC ウイルスのアグノタンパク質に対する
siRNA、およびそれを含有してなる医薬組
成物 (特願 2004-153170 号)

JC ウイルスの VP-1 に対する siRNA、お
よびそれを含有してなる医薬組成物 (特願
2004-153243 号)

JC ウイルスの粒子形成阻害剤 (特願
2004-165083 号)

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

I. 平成16年度プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班 会議一覧

| | |
|----------------|---|
| 平成16年 7月 9日 | 医療を介する二次感染予防対策会議（厚生労働省） |
| 平成16年 9月17日 | CJD サーベイランス委員会(国立がんセンター) |
| 平成16年 10月16日 | SSPE 分科会(東京医科歯科大学) |
| 平成16年 12月21日 | PML 分科会(全共連ビル) |
| 平成16年 1月24日 | 研究班班会議(全共連ビル) |
| 平成17年 2月 4日 | CJD サーベイランス委員会(厚生労働省) |
| 平成17年 2月 9～10日 | CJD サーベイランス委員会(国立がんセンター) |
| 平成17年 2月10日 | CJD 全国担当者会議(国立がんセンター) |
| 平成17年 2月25日 | CJD サーベイランス委員会 vCJD ワーキンググループ (厚生労働省) |
| 平成17年 3月 5日 | CJD サーベイランス委員会 vCJD ワーキンググループ (国立がんセンター) |
| 平成17年 3月12日 | CJD サーベイランス委員会 vCJD ワーキンググループ (東京医科歯科大学) |
| 平成17年 3月22～26日 | 英国保健省健康予防庁の CJD インシデントパネル事務局、 英国国立 CJD サーベイランスユニット訪問 (ロンドン、エジンバラ) |
| 平成17年 3月27日 | CJD サーベイランス委員会 vCJD ワーキンググループ (東京医科歯科大学) |

平成 16 年度研究報告会
プログラム

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服研究事業

プリオン病及び遅発性ウイルス感染
に関する調査研究班

平成16年度
班会議抄録集

班長 水澤英洋

日時：平成17年1月24日 9:00～17:38

場所：全共連ビル 大会議室

東京都千代田区平賀町2丁目7番9号

TEL:03-5215-9501 FAX:03-3237-1370

プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班事務局

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科）

TEL: 03-5803-5234 FAX: 03-5803-0169

e-mail: prionhan.nuro@tmd.ac.jp

プログラム

厚生労働省健康局疾病対策課・班長 御挨拶 (9:00-9:05)

A-1-1 から A-1-5 (9:05-10:00)

座長：山田正仁

A-1-1. 特定疾患治療研究事業による臨床調査個人票をもとにしたクロイツフェルト・ヤコブ病のサーベイランス結果

渡邊至 1、中村好一 1、山田正仁 2、水澤英洋 3

1)自治医科大学公衆衛生学教室、2)金沢大学大学院医学系研究科、3)東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

A-1-2. CJD サーベイランスにおける問題例：わが国における変異型 CJD 疑い例および孤発性 CJD 診断困難例の検討

山田正仁 1、浜口 毅 1、中村好一 2、佐藤 猛 3、北本哲之 4、立石 潤 5、森若文雄 6、志賀裕正 7、水澤英洋 8、袖山信幸 8、村山繁雄 9、黒岩義之 10、西澤正豊 11、葛原茂樹 12、武田雅俊 13、黒田重利 14、村井弘之 15

1)金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科)、2)自治医科大学公衆衛生学、3)国立精神・神経センター国府台病院、4)東北大学大学院病態神経学、5)老人保健施設春風、6)北海道大学大学院神経内科、7)東北大学大学院神経内科、8)東京医科歯科大学大学院脳神経機能病態学(神経内科)、9)東京都老人総合研究所神経病理部門、10)横浜市立大学神経内科、11)新潟大学脳研究所神経内科、12)三重大学神経内科、13)大阪大学大学院精神医学、14)岡山大学大学院精神神経病態、15)九州大学大学院脳研神経内科

A-1-3. クロイツフェルト・ヤコブ病の発症から脳波、脳 MRI、14-3-3 蛋白、NSE で異常が認められるまでの期間

袖山信幸 1、水澤英洋 1、中村好一 2、山田正仁 3、佐藤猛 4、北本哲之 5、黒岩義之 6、森若文雄 7、志賀裕正 8、武田雅俊 9、西澤正豊 10、葛原茂樹 11、黒田重利 12、村井弘之 13、村山繁雄 14、立石潤 15、堂浦克美 16

1)東京医科歯科大脳神経機能病態学、2)自治医科大疫学・地域保健部門、3)金沢大大学院脳老化・神経病態学、4)東大和病院神経内科、5)東北大大学院病態神経学、6)横浜市立大神経内科、7)北海道医療大学心理学部言語聴覚療法学科、8)東北大神経内科、9)大阪大大学院神経機能医学、10)新潟大脳研究所神経内科、11)三重大神経内科、12)岡山大大学院精神神経病態学、13)九州大大学院脳神経病研究施設神経内科、14)東京都老人総合研究所神経病理部門、15)老人保健施設春風、16)東北大大学院プリオン蛋白分子解析分野

A-1-4. プリオン病の診断における MR 拡散強調像と ADC

湯浅龍彦 1、本田 聡 2、袖山信幸 3

- 1) 国立精神・神経センター国府台病院神経内科、2) 同 放射線部、
3) 東京医科歯科大学大学院脳神経機能病態学 (神経内科)

A-1-5. プリオン病患者・家族の心理支援

田村智英子

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科遺伝カウンセリングコース

A-2-1 から A-2-6 (10:00-11:06)

座長：水澤英洋

A-2-1. Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD) にみられる 周期的な頭部と眼球の向地性運動

児矢野繁，戸田宏幸，鈴木ゆめ，黒岩義之

横浜市立大学神経内科

A-2-2. 世代内で異なる octapeptide リピート数挿入を認めた、Creutzfeldt-Jakob 病の一家系

齊藤祐子 1、清水潤 2、高津成美 3、小松崎八寿子 4、中野正剛 5、高橋啓 6、佐々木健介 7、
原正道 8、平安良雄 9、山田正仁 10、有馬邦正 11、金澤一郎 12、村山繁雄 1

- 1) 都老研老化臨床神経、2) 東京大学神経内科、3) 東京通信神経内科、4) 初石病院神経内科、
5) 福岡大学第五内科、6) 東邦大学大橋病理、7) 九州大学脳研病理、8) 横浜市立大学病理、
9) 同 精神科、10) 金沢大神経内科、11) 国立精神神経センター武蔵病院検査部、12) 同 神経内科

A-2-3. 孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病 MM2 皮質型の臨床診断と経口ペントサンポリ硫酸治療

野口もえ子、浜口 毅、吉田光宏、古川 裕、岩佐和夫、北本哲之、山田正仁

金沢大学大学院脳老化・神経病態学 (神経内科)、東北大学大学院病態神経学

A-2-4. M232R 家族性 CJD の臨床像

志賀裕正 1、菅野重範 1、佐藤 滋 2、糸山泰人 1

- 1) 東北大神経内科、2) 広南病院神経内科

A-2-5. プリオン病の視床病変について

天野直二

信州大学医学部精神医学教室

A-2-6. ヤコブ病の病理変化のマッピングと異常型プリオン蛋白タイプ分類

佐々木健介、岩城 徹

九州大学大学院医学研究院神経病理学分野

A-3-1 から A-3-6 (11:06-12:12)

座長：堂浦克美

A-3-1. Creutzfeldt-Jakob 病(CJD)に対する Quinacrine 治療プロトコールの再考

坪井義夫、堂浦克美、藤木富士夫、山内淳史、片岡泰文、山田達夫

福岡大学医学部第 5 内科、薬学部薬学疾患管理学教室、東北大学大学院医学系研究科プリオン蛋白研究部門

A-3-2. キナクリンの脳及び肝移行に関する薬物動態学的解析

片岡泰文 (堂浦班)

福岡大学薬学部薬学疾患管理学

A-3-3. クロイツフェルト・ヤコブ病の病態評価マーカーの検討と治療薬開発

調 漸 1、佐藤克也 1、江口勝美 1、西田教行 2、片峰 茂 2、古川ひさ子 2、丹羽正美 3、片岡泰文 4

1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科神経病態制御学、2) 同・大学院感染分子病態学
3) 同・大学院神経感覚医学解析学、4) 福岡大学薬学部薬剤学

A-3-4. アミロイド・イメージング化合物のプリオン病診断と治療への応用

堂浦克美 1、石川謙介 1、工藤幸司 2

1) 東北大学大学院医学系研究科、2) 東北大学先進医工学研究機構

A-3-5. 人工合成硫酸化配糖体による PrP^{Sc} の産生抑制

堀内基広 1、山口聡子 2、鶴沢浩隆 3、西田芳弘 4

1) 北海道大学大学院獣医学研究科、2) 帯広畜産大学畜産学部、3) 産業技術総合研究所、4) 名古屋大学大学院工学研究科

A-3-6. 培養細胞系を用いたプリオン感染因子の株多様性の解析

西田教行 (堂浦班)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・感染分子病態学・感染分子解析学

昼食 12:12-13:10

分担研究者・研究協力者会議

P-1-1 から P-1-4 (13:10-13:54)

座長：村本環

P-1-1. プリオン蛋白質関連神経細胞死抑制および細胞分化に関する研究

佐伯圭一

東京大学・大学院農学生命科学研究科・応用免疫学教室

P-1-2. 膜貫通型プリオン蛋白の異常化

村本 環

東北大学大学院医学系研究科創生応用医学研究センタープリオン蛋白研究部門

CJD 早期診断・治療法開発分野

P-1-3. 抗ヒト型異常プリオン蛋白モノクローナル抗体の解析と染色態度

田中智之 1、北元憲利 2、毛利資郎 3、北本哲之 4

1) 堺市衛生研究所, 2) 兵庫県立大学環境人間学部, 3) 九州大学大学院動物実験施設実験動物学, 4) 東北大学大学院医学系研究科病態神経学分野

P-1-4. プリオン蛋白は N-末領域で宿主蛋白と結合する

坂口末廣

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染分子病態学

P-2-1 から P-2-5 (13:54-14:49)

座長：毛利資郎

P-2-1. 末梢組織生検によるプリオン病生前診断方法開発の試み

古川ひさ子 1、片峰 茂 2、横山 隆 3、丹羽正美 1

1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科第 1 薬理学、2) 同 感染分子解析学、3) 独立法人動物衛生研究所プリオン病研究センター

P-2-2. プリオン感染および治療に伴う遺伝子発現の解析

三好一郎 1、宮本智美 1、村本環 2、北本哲之 2、毛利資郎 3

1) 名市大・院医・実験動物研究教育センター、2) 東北大・院医・CJD 早期診断・治療法開発、3) 九大・院医・動物実験施設

P-2-3. 正常型プリオン蛋白質過剰発現による神経細胞死の機構

金子清俊 1,2、渡邊光太 1,2、川端真紀子 1,2、定塚晶子 1,2、小塚芳道 1,3、
逆瀬川裕二 1、八谷如美 1、2

1)国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第七部、2)CREST(科学技術振興機構)、3)
国立精神・神経センター神経研究所微細構造研究部

P-2-4. ヒトプリオンの伝達試験(3)

毛利資郎 1、北本哲之 2、三好一郎 3

1)九大・院医・実験動物学、2)東北大・院医・病態神経学、3)名市大・院医・実験動物研
究教育センター

P-2-5. 本邦高齢牛における全身性AA-アミロイドーシスの頻度に関する研究

東城加奈 1、徳田隆彦 1、池田修一 1、樋口京一 2、星井嘉信 3、松井高峯 4

1)信州大学医学部第三内科、2)信州大学医学部加齢適応脈管病態、3)山口大学医学部病理、
4)帯広畜産大学獣医学部家畜病理

休憩(14:49-15:15)

P-3-1 から P-3-4 (15:15-15:59)

座長:細矢光亮

P-3-1. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の実態について

二瓶健次 1、飯沼一宇 2、大塚頌子 3

1)横浜らいず、2)東北大学小児科、3)岡山大学発達神経病態学

P-3-2. 亜急性硬化性全脳炎に対するリバビリン治療に関する全国調査

野村恵子、白石晴士、三池輝久

熊本大学医学部発達小児科

P-3-3. 亜急性硬化性全脳炎における髄液中リバビリン濃度の解析

大村孝文 1、野村恵子 2、三池輝久 2

1)熊本大学医学部附属病院薬剤部、2)同 発達小児科

P-3-4. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)に対するリバビリン脳室内投与療法

細矢光亮

福島県立医科大学 小児科

P-4-1 から P-4-4 (15:59-16:43)

座長：二瓶健次

P-4-1. 亜急性硬化性全脳炎および急性麻疹のサイトカイン解析

市山高志 1, 上野佳子 1, 高須俊明 2, 三木健司 2, 吉良龍太郎 3, 楠原浩一 3,
古川 漸 1

1) 山口大学小児科、2) 日本大学神経内科、3) 九州大学小児科

P-4-2. SSPE 発症 6 週間後の 5 歳患児から最近分離された SSPE ウイルス新鮮分離株の解析

堀田 博 1、加藤誠一 1、長野基子 1、二瓶健次 2

1) 神戸大学大学院医学系研究科微生物学研究分野、2) 国立成育医療センター神経内科

P-4-3. SSPE における遺伝子発現プロファイルと Granulysin 遺伝子-189G/T 多型解析

楠原浩一、吉良龍太郎、武本環美、鳥巢浩幸、原 寿郎

九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野

P-4-4. カニクイザル脳内における麻疹ウイルス持続感染

網 康至

国立感染研究所動物管理室

P-5-1 から P-5-5 (16:43-17:38)

座長：長嶋和郎

P-5-1. 進行性多巣性白質脳症 (PML) の治療ガイドラインの作成

黒田康夫 1、岸田修二 2、長嶋和郎 3、余郷嘉明 4、水澤英洋 5

1) 佐賀大学内科、2) 都立駒込病院神経内科、3) 北海道大学分子細胞学、4) 東京大学泌尿器科、5) 東京医科歯科大学神経内科

P-5-2. HIV-関連 PML の発症と CD4(+)リンパ球数ならびに HIV 負荷量との関係

岸田修二

都立駒込病院神経内科

P-5-3. PML 型 JC ウイルスに頻発する VP1 ループ変異

余郷嘉明

東京大学医学部泌尿器科

P-5-4. 進行性多巣性白質脳症の核内ウイルス封入体形成メカニズム：JC ウイルスは PML 核体で粒子形成する

穴戸 - 原由紀子

杏林大学医学部病理学教室

P-5-5. JC virus 感染における、Cleavage stimulation factor complex の関与

澤 洋文、仙葉慎吾、岡田由紀、長嶋和郎

北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学